日本看護歴史學會
會報
日本看護歴史学会
第 11 号
1991年10月31日

濃尾大地震の災害救護から百年

吉川　龍子

今年の日本看護歴史学会第五回大会は、八月二四・二五日に国立名古屋病院講堂において開催された。今年、名古屋を開催地としたことは、看護歴史の上からみても意義があったといえよう。

それは、愛知・岐阜両県下を中心に甚大な被害を生じた濃尾大地震の際に、教育を受けた専門看護婦が最初の救護活動を行なってから、百年目にあたるからである。

「百雷の頭上に墜落せしと思ふ間もなく劇烈な震動をおこし、瓦飛び屋倒れ、地裂け井涸れ」と、記録されている。(『濃尾震誌』)この大地震(マグニチュード8)は百年前の一八九一年(明治二四)一〇月二八日午前六時三八分に発生し、死者七二七三名、傷者一万七一七五名、家屋全壊一四万二一七七戸という大被害を生んだ。わが国の内陸地震としては最大のものである(『理科年表』)。

災害発生後直ちに地元の医師らによる救護が始まったが、被害甚大のため人手も医療品も不足し、惨状を増すばかりであった。

そこで愛知県知事の要請に応じて翌二九日夜には東京の日本赤十字社病院から救護班が出発、一昼夜かかって三〇日夜に名古屋に到着し、三一日から愛知県下の仮病院で救護を開始した。三〇日朝出発の別班も、一一月一日に岐阜県下で救護活動を始め、その後も救護班の派遣が続いた。

関東地域からは、東京慈恵医院などの各病院、東京婦人矯風会など、関西からも京都の同志社病院などの看護婦が派遣された。

日本において看護婦の養成教育が開始されてから、まだ間もないころのことである。日本赤十字社病院派遣看護婦二〇名のうち、一〇名が同じ月に学業を終えたばかりの第一期生であったように、教育を受けた看護婦の数は実際には少なかった。しかしそのきびしい状況下で、看護婦たちは文字通り不眠不休の業務に従事し、多くの人命を救った。

震災後数日を経て救護所に運ばれてきた頭部裂傷のある患者は、「其凝血毛髪塵埃ト共ニ乾燥シ硬固ナルコト板ノ如ク一タヒ毛髪ヲ去レハ腐敗性ノ貯膿血液ト共ニ流出シ或ハ内ニ蛆虫ヲ充タスアリ」(『日本赤十字社史稿』)というありさまであった。

この救護活動に加わった看護婦の縁故者の話では、のちの戦時救護よりも濃尾大地震救護の体験の方が、本人の記憶の中に印象強く焼きついていたという。

縞もようの筒袖の和服に白エプロンと白帽姿の看護婦の活動ぶりが、写真にも残されている。

当時の人々は、看護婦という職業の存在さえ殆んど知らなかったから、彼女らの献身的な活動を目のあたりにして、「女の先生」とあがめ、あたかも医博士のごとくに尊敬した(『女学雑誌』第二九九号)。

看護婦による災害救護活動はその後も三陸津波(一八九六年)、関東大震災(一九二三年)をはじめ数多く行なわれ、現在では外国での大災害の際にも派遣されて、国際救援の実をあげている。

災害救護を支えている看護婦の活動は、あまり報道されないので、一般の人には知られていない。先の日航ジャンボ機墜落事故(一九八五年)でも、生存者四名の報に医師と共に看護婦がヘリコプターから現場に降下して、応急処置を行ない、その生命を救ったのに、社会には知られなかった。

看護歴史の上で、看護婦の救護活動といえば戦時救護にだけ目を向けがちであるが、実際の活動量からみれば、災害救護の方がはるかに多いのである。

地震をはじめ津波、台風、噴火などの災害が多く、その度に死傷者を出してきた日本災害史の中の、百年におよぶ看護婦の災害救護の実績を、この機会に改めて見直すべきであろう。

第五回総会報告

代表幹事　亀山美知子

去る八月二四日午後四時より、日本看護歴史学会第五回総会が国立名古屋病院講堂で開催されました。以下はその要旨です。

一、一九九〇年度活動報告　すでに研究者の質の向上をめざしてきたが、尚一層の努力を求める。

一、本会会報は会員との意志の疎通をはかるものであるが、事情によりその発行が大幅に遅れた。また機関誌も執筆者の都合で発行が遅れた。合わせて謝罪する。

一、本年度は、昨年の総会で了承を得たとおり、保健婦50年記念事業の内容を幹事会で決定し、本大会を記念大会とするとともに記念テレカを作製した。

一、本会は年会費三千円で運営してきたが、最近、印刷費の高騰などにより経営が困難となっている。そのため総会の場で次年度より四千円にすることを提案し、可決された。これに伴い、本会会則第六条の中の「年会費三・〇〇〇円」とあるのを本年八月二五日付で「年会費四・〇〇〇円」と改正された。今後、会の充実に鋭意努力したい。

日本看護歴史学会　1990年度会計報告

収入の部　（単位　円）

項目	予算額	決算額	差し引き額
前年度繰り越し金	306,783	306,783	0
会費	450,000	480,000 88会費 6人 89会費32人 90会費89人 (内新規16人) 91会費32人 92会費 1人 計 160×3000	30,000
寄付金その他の収入	10,000	19,342 会誌売上14,500 利子 4,842	9,342
合計	766,783	806,125	39,342

支出の部　（単位　円）

項目	予算額	決算額	差し引き額
事務経費 印刷費 通信費 事務用品費	80,000 (20,000) (40,000) (20,000)	85,682 (4,635) (81,047)	▲5,682
幹事開催費	100,000	55,000	45,000
出版費 会報発行費	300,000 (120,000)	79,310 (79,310)	220,690
学会誌発行費	(180,000)	内訳 8号27,810 9号20,600 10号30,900 (0)	
会員名簿費	0	1回／3年	0
総会費	50,000	38,588	11,412
分科会費	20,000	18,975	1,025
予備費	216,783	180,250 (学会誌3号)	36,533
合計	766,783	457,805	308,978

次年度への繰り越し額

実収入額766,783円－実支出額457,805円
＝308,978円

日本看護歴史学会　1991年度予算

収入の部　（単位　円）

項目	予算額	摘要	前年度決算額
前年度繰り越し金	308,978		306,783
会費	450,000	150×3,000	480,000
寄付金その他の収入	10,000		19,342
合計	768,978		806,125

収入の部　（単位　円）

項目	予算額	摘要	前年度決算額
事務経費	120,000		85,682
印刷費	(20,000)		(4,635)
通信費 事務用品費	(100,000)		(81,047)
幹事会開催費	100,000		55,000
出版費	280,000		79,310
会報発行費	(100,000)	年3回分	(79,310)
学会誌発行費	(180,000)	年1回	(0)
会員名簿費	0	1回／3年	0
総会費	50,000		38,588
分科会費	20,000		18,975
予備費	198,978	前年度学会誌発行費（18万円）未執行分を含む	180,250
合計	768,978		457,805

分科会報告

分科会担当　渡部　尚子

第五回分科会では、計五分科会が開かれました。各分科会の内容は次の通りです。

一、文学・映像にみる看護　参加者六名。五十嵐節氏からチャールズ・ディケンズの小説をもとに十九世紀英国の看護婦の社会的評価に及ぼした影響についての話題提供。小説に描かれた看護婦像が社会的評価を低下させたことに言及している文献の紹介と社会的影響について報告。参加者からの新資料の提供を加えて意見交換。今後の研究課題ーさらに関係文献を収集し考察する。

二、ナイチンゲール　参加者九名。上岡澄子・吉川龍子氏から明治期の女子教育の記事にみるナイチンゲールの引用についての資料紹介。わが国におけるナイチンゲールの受容と時代変遷によるその変化をアメリカとの対比を含めて意見交換。今後の研究課題ー資料の社会背景の分析、日本の近代史の中で受容の変遷を明らかにしていく。

三、助産史　参加者七名。佐山光子氏から職業確立過程にある埼玉県の明治期産婆に関する研究についての研究経過報告。資料検索や今後の進め方について意見交換。今後の研究課題ー参加者に対し同視座による研究取り組みの呼び掛け、他府県と比較考察。

四、近代看護史　参加者四名。鵜沢陽子氏より千葉県の明治期の病院に関する資料提供。それをもとに看護婦の役割と看護の変遷をめぐって意見交換。今後の研究課題ー明治期の看護学校設立後の変遷、他府県との病院看護の比較、教育や人脈の流れなどを調査。

五、看護教育史　参加者九名。看護教育に対し、他分野と比較しつつ意見交換、討議。看護の教科書について論点集中。今後の研究課題ー過去の教科書の看護技術に関する資料を収集、記述内容調査。

日本看護歴史学会誌
投稿の募集について

投稿規程に従い、本年も十二月二十日〆切りとして原稿を募集します。

編集委員会事務局
東京都新宿区信濃町三五
慶応義塾看護短大内
藤村龍子気付

第五回看護歴史学会に出席して

高岡スミ子

看護の最長経験者ということで指名を頂きましたので、愚見を述べさせて頂きます。大会第五回目を迎えて、会場では、お顔見知りの方も出来、何となく、親しみ易く、気軽に参加出来てよかったと思いました。年齢を問わず、新旧を問わず、暖かく受け入れて下さって有難かったという若い方の声もありました。企画、準備、を担当された皆様に厚く御礼申し上げます。分科会では、数多くの、目新しい資料が配布され、自由に討論も出来て、大きい収穫が得られました。研究発表については、発表者の熱意が伝わってきて、努力の程が感じられましたが、もっと研究を深められるためにも、今少し、時間をかけて、アドバイス等、あれば聴く側にもよかったのではないかと思いました。

この五年間に、看護史の研究の必要性を認めて、この会に参加され、各々の立場で、地道に取り組んでいられる方々もあることと思いますが、現状に於て、参加者と企画側の意図か、どこにあるのか、一寸、理解しにくいという感じを持っています。

「研究者を育てる」とか、看護教育の資料となる為の「研究結果を形で表す」(まとめる)とか「啓発のための勉強会にする」とか、と言ったことが意義として、或いは、目的として、あげられるかと思いますが、現在、行われている形式に於て、そうした到達地点に向う要素は含まれているとしても、実質的な歩みが弱い、という感じがしております。私は、確とした目的のないまま、興味、関心を充たすための勉強をさせて頂いている、というのに、このような、意見を述べる資格はないかもわかりませんが、一回毎に、一時的な勉強の場で終っているという気がしております。同様に、いささか、物足りない心境でいる人もあるのではないかと感じています。

この学会の存在は、将来へ向けて大変貴重な役割を担うものとして、期待されると考えておりますので、より多くの人々の意見を吸収して、土台を固めて行くことが、今、必要なのではないでしょうか。広く社会的、或いは学術的、探求に資するための力を養うことが出来るよう希っております。

記念講演を聞いて

佐山　光子

「保健婦五十年記念」にちなみ、保健婦誕生の礎を築かれた丸山博先生はその経緯について、保健婦活動の魁となられた前田アヤ先生は聖路加国際病院における公衆衛生活動について当時の状況を踏まえながら講演されました。

昭和の時代も過去のものとなり、また戦後の混乱期を知らない（もちろん若くはありませんが）私にとっては、保健婦の生の歴史の一端をうかがい知る貴重な機会でした。

お二人とも八十歳を過ぎて、いまなお、かくしゃくとしておられ、お話の端々から歴史的な流れの中で保健婦の将来を鋭く見据えておられるように思いました。

それにつけても、戦前、戦後の公衆衛生活動に従事した保健婦さんや助産婦さんの体験談やエピソードを聞くたびに、いきいきとした人間臭さと理想と熱意に燃えて人々の健康問題に取り組んだ息吹きを感じます。このような体験談は看護職であっても今の若い人達には想像もつかない別世界のことになってしまいました。

日本はいま、情報化社会、ハイテク時代へと大きく様変わりし、まさに隔世の感があります。人々の生死は病院に委ねられるようになり、看護職は地域から施設へと吸収され、ヒューマンサービスとしてのケアや役割はその是非は別として変化してきました。

そしていま、保健福祉医療の状況が大きな転換期にあることを思うと、この流れの中で、看護職が何を獲得し、何を失ったのか、失ったものの価値を問い直してみる必要があると思いました。いま必要なのは看護専門職としての「手と目で護る」実践的で確固たる看護の「技術」ではないかと考えるこの頃です。

この夏、ナイチンゲールを探して

小玉香津子

八月後半、トルコはイスタンブール、エジプト、ギリシアのアテネ、とナイチンゲールゆかりの地を訪ねる旅をした。一行二三人の多くが看護史を教えるか研究するかしている者で、私も含めこれらの地を踏むのは初めてだった。

「四隅に塔のある巨大な方形の建物」は現在トルコ陸軍の本部であるため、見学許可をとるのが大変だったらしい。全長四マイルのベッドの列があった廊下を歩き、あの時の看護婦塔に登った。記憶がどっと甦った、と言ったらおかしいのだろうが、そうだった。次いで海峡を隔て、ヨーロッパ側から全景を望むと、英国に彼女を訪ねた一昨年の旅を続けているような気がしてきた。その思いを振り切り、クリミア以前の若いフロレンスを追ってエジプトへ。

著作『エジプトからの手紙』をもとに、彼女と同じくカイロからアブシンベルまでナイルを溯る計画をたてた。もっとも彼女は船、我々は飛行機、彼女は五か月、我々は五日。しかし、エジプトの空と砂とナイル、それに古代からの声は一四〇年前も変らなかったろう。現代の彼の地の人々の暮しもこの夏のようにあったろう。つまり彼女の見たものを我々も見たのである。ただ、彼女は苦しんでいた。三〇歳が目前というのに別の人生へと踏み切れないその苦しみを、エジプトのもろもろはいっそうつのらせていた気配がある。

アテネでそれは最高潮に達したのではなかったか。我々はパルテノンの丘下にユーメニディーズの洞窟を探しあて、独りそこに坐して考えるフロレンスに会った。

医学の歴史を訪ねてみませんか！

◆医学に関する古書・医学資料・書画・写真など多数の文化財が保存・展示されています。

医学文化館

◆所在地　〒198青梅市黒沢1－722－31 ☎0428－24－5444

◆ＪＲ青梅線－東青梅駅下車、バス５分　聖明園前下車

◆開館時間　10:00～16:00　◆休館日　毎週月曜日

日本看護歴史学会：講演・シンポジウム・研究発表（1987～1991年）

年　月　日	プログラム	テ　ー　マ　（演者）
'87. 8. 26	特別講演	お雇い外国人の研究とその課題 仏教大学教授：梅渓　昇
'88. 8. 20	記念講演	女子教育史の視点から看護教育を考える 群馬県立女子大学教授：村田　鈴子
8. 21	シンポジウム	同時代史としての戦後の看護を語る 看護制度の面から：都築　公 看護教育の面から：武藤　美知 看護管理の面から：草刈　淳子
'89. 8. 19	講演	医療と看護婦・中国の場合 神戸大学教授：筧　久美子
8. 20	放談会	私のみた戦後の看護教育改革 元日本看護協会会長：小林富美栄 元東京都看護協会会長：吉田　浪子 当時東京看護模範学院生徒：氏家　幸子
'90. 8. 18	記念講演	歴史研究の基礎 東京大学教授：寺崎　昌男
8. 19	シンポジウム	歴史的研究の実践 ナイチンゲール研究所：小南　吉彦 元日本看護大学図書館：吉川　龍子 看護史研究会：坂本　玄子
'91. 8. 24	講演	保健婦誕生にかかわって 元大阪大学衛生学教授：丸山　博
	〃	聖路加の公衆衛生看護活動のあゆみ 聖路加看護大学名誉教授：前田　アヤ

学問を築くこと

千葉大学看護学部三年
滝沢　道子

私は大学入学の直後より将来は看護学を己れの力で人類の最高形態たる学問のレベルまで高めると言う目標を持っている。その為に過去の優れた先人の残された書物は可能な限りに読みあさった。医療関係は勿論の事、哲学の方にも多く傾倒し、アリストテレスからカント、ヘーゲルに至るまで、時代のあらゆる個別科学を総括してその時代の学問の最高結晶たらしめた偉人の書は特に読み、彼らが如何にしてそこ迄の高みに至る事が出来たのか、その秘密を探る事に嬉々として取り組んでいた。彼らは偶然それを作り出した訳ではない。きっとその中には法則性があるはずだと思っていた。しかしその夢は私の拙い学識能力の故にあたかも気体を摑むような空虚な幻となっていた。しかしながらこれらの取り組みにより、歴史は又、身近な存在となっていた。そんな折に高橋助教授から学会へのお誘いを頂き、かつて感動して丸山博氏の書を読んでいたこともあって、まさに天にも昇るような気持ちで学会に参加させて頂いた。学会において私は看護学の最前線で活躍されている方、図書館の書架で名前を認めた方々に直にお話を伺う事ができた。学問への真摯な取り組みに加えて人間愛溢れたそのお人柄は何よりも私を憧れさせた。その人生の目標とする人にめぐりあえた日、私はまた学問を築きあげるための歴史研究の意義を確認する事ができた。第一に歴史上優れた学的発展を生み出した偉人は、人間の生活に関わる所の全ての事象－政治・社会・経済・科学・文化・教育等－を対象とし、あらゆる対立事象を操作・解決していった過程を有し、まさに弁証法的歩みを進んでいた。彼らはヒューマン・スピリットのみでなく、非常に具体的な方法論を我々の前に提示している。我々の使命はその史実に論理の光を当て、科学的方法論を抽出し、実践学として現代の医療のさらなる発展に貢献する事である。第二に史実を研究する事により、看護の然るべきあり方・看護理論が明確となる事である。第三に史実と照らし合わす事により、現代における諸問題を分析する事ができる。以上である。

私はこれより歴史を学び学的研鑽に一層励んでいこうと決心した。

事務局だより

◆会員消息

住所変更（敬称略）

小栗克子→611宇治市小倉町老ノ木21　宇治川病院
岡山寧子→617長岡京市竹の台一－A－一〇三
金谷光子→612京都市伏見区深草西浦町四－48－49シャトー深草Ⅱ
安岡理宇→277柏市布施新町一－一－一
宮原紀子→相模原市横山台二－15－21－一〇四
伊藤孝治→465名古屋市名東区梅森坂三－三二三
小南吉彦→359所沢市小手指町一－七－517ナイチンゲール研究所内
榛葉益枝→430掛川市葛川一〇三七
加納尚美→965会津若松市山見町33五十嵐方

●新入会員紹介（敬称略）●

南里令子　843-03佐賀県小城郡芦刈
新村五三六
船村朋子　144東京都大田区西蒲田八－23－九マンション亀楽4A
滝沢道子　260千葉市弥生町四－三ア
ミニティ弥生四〇二
山田要子　063札幌市西区西野十条九丁目二－五
宮崎徳子　460名古屋市中区三の丸四－一－一国立名古屋病院看護助産学校内
奥田一子　453名古屋市中村区太閤五－六－六
青山美智代　636奈良県北葛城郡王寺町王子三－一－二七－四一七
滝本美佐子　572寝屋川市池田三－一－四九
三ツ山井子　東京都昭島市つつじが丘三－二－二－九〇六
佐藤睦子　亀岡市曽我部町寺広畑一－一－二
金井悦子　155東京都世田谷区北沢五－一七－一六
坂本玄子　156東京都世田谷区経堂五－三五－七
濱中喜代　273船橋市金杉一－二八七船橋市立看護専門学校

改姓・住所変更（敬称略）

平井真由美→澤田真由美（700岡山市奥田西町一－一六－三〇三）

退会者（敬称略）

増本喜枝、亀岡里美、朝倉あつ子
杉野元子

◆保健婦50年記念テレカの発売

すでに御案内したように、本年が保健婦制度制定後五〇年目にあたることから、本会では記念事業の一環としてオリジナル・テレカを作製し発売しております（50度数、一枚八百円）。ぜひ記念に御購入下さい。お問い合わせ先は本会事務局宛にハガキでお願いいたします。（亀山）

（デザイン　小田垣覚氏）

◆丸山博先生の御著書紹介

『丸山博著作集　全3巻』農山村文化協会
『保健婦・養護教諭とともに』医療図書出版
『森鴎外と衛生学』頸草書房
『いのちと食 ― 食生活の基本を問う』せせらぎ出版
『14年目の訪問 ― 森永ひ素ミルク中毒追跡調査の記録』森永ミルク中毒事件調査会　ほか

編集後記

よく、出版社は執筆者の遅筆を見込んで早目に原稿締切日を決める。執筆者は出版社のその戦術を見抜いて締切日がきてから書き始める。原稿締切日に纏る話は枚挙にいとまがない。今回、初めて編集役を引受け、締切日のこの三文字の重みを改めて認識させられる日々だった。（渡）

日本看護歴史学会会報第十一号
編集・発行責任者
〒338浦和市上大久保五一九
埼玉県立衛生短期大学
渡部　尚子

日本看護歴史学会事務局
〒615京都市右京区西院月双町111
マンハイム五条三〇九
亀山美知子